

令和6年度 競技成績報告会」を 学生食堂で開催！

羽ばたけ 大空へ

新財団

編集：鹿屋体育大学
発行：公益財団法人鹿屋体育大学
体育・スポーツ振興教育財団
編集責任者：鹿屋体育大学長
発行人（発行責任者）：財団理事長 風呂井 敬
財団事務局：〒891-2393 鹿屋市白水町1番地内 0994-46-4827(直)

令和7年2月12日、鹿屋体育大学及び公益財団法人鹿屋体育大学体育・スポーツ振興教育財団の主催による「令和6年度競技成績報告会」を開催しました。この会は、今年度に世界大会出場や全国大会優勝など、各競技大会で特に優秀な成績を収めた学生の健闘をたたえ、ともに、日頃からの支援・協力をい



鹿屋市スポーツ奨励金受賞者18名を代表し、中西市長から奨励金を授与される陸上競技部の大園倫太郎さん

ただいての学内外の方をお招きし、感謝の意をお伝えするために毎年開催しています。金久博昭学長が主催者として、昨年は4年ぶりにこの会場で開催し今年度も引き続き開催できることへの謝辞を初めに述べ、今年度の国内外の競技大会での多くの学生の活躍や、昨年の「パリ2024オリ

ピック」における体操競技部OBの杉野正堯さんの男子団体総合金メダル獲得、自転車競技部OBの橋本英也さんが男子4000メートル団体追い抜きへの出場などの活躍を大変喜ばしいことだと挨拶しました。また、来賓を代表して挨拶を行った中西市長は「スポーツは人生を潤すもの。学生の皆さんの競技成績が良いのも指導者の皆様の努力の賜物であり、また市中で見かけたり出会う学生の皆さんの人間性も素晴らしい。学業やスポーツに真剣に向き合う学生の皆さんの人間形成はしっかりとできていて、印象だ。鹿屋の学生時代、青春時代を謳歌してください」と激励し、公益財団法人鹿屋体育大学体育・

スポーツ振興教育財団の風呂井敬理事長は「今年度もこの場を設けられてうれし。ひとえにご来賓の皆様この財団への支援の賜物であり、学生の皆さんへは今後も支援を続けていくので、さらに活躍してください」と、財団への支援に感謝の意を添えながら乾杯の発声を行い会がスタートしました。

乾杯の後には、季節のフルーツも盛り込まれながらも学生好みのボリュームたっぷりのメニューに、満面の笑みで舌鼓する歓談の中、課外活動団体ごとに顧問教員や学生から競技成績の報告等が行われたほか、鹿屋市から鹿屋市スポーツ奨励金の贈呈、一般社団法人At Farm Atmosphereから鹿



歓談中の学生

屋体育大学アワードの表彰（当日はご欠席のため贈呈は関係者より）が行われました。その後、松本仁心さん（スポーツ総合課程4年、坂出工業高等学校・香川・カヌー部）が、ご支援いただいている皆様への感謝の気持ちを述べ、つらい時も仲間と一緒に乗り越えてきた経験や、大学で培ってきた知識



鹿屋体育大学アワード表彰



主催者挨拶の金久学長



来賓挨拶の中西市長



学生代表挨拶をするカヌー部の松本仁心さん



閉会にあたり謝辞を述べる竹中委員長

や技術を年かして今後も競技を続けていきたいと、学生代表の挨拶をしました。最後に竹中健太郎競技力向上委員会委員長（競技力向上担当学長補佐）から謝辞があり、約1時間30分ほどの限られた時間ではありましたが、参加した学生、列席した学内外の支援者のこのような機会を設けていただいていたありがたいといふ多くの声とともに盛会のうちに終了しました。鹿屋体育大学は、この地にある学術研究・教育の現場として、体育・スポーツに関わるさまざまな取り組みを通して、地域の皆様とともにあゆみ、今後も引き続き競技力向上に励み、数多くのトップアスリート輩出や期待に応えられるよう努めてまいります。今



いつも支援いただいている来賓の皆様と

鹿屋体育大学の魅力を広く国内外に発信してもらうことを目的とした「鹿屋体育大学広報アンバサダー第1号」にパリ五輪体操男子団体金メダリストの杉野正堯選手が就任し、金久博昭学長から委嘱状が贈られました。杉野選手からは「学部4年間と修士課程までを鹿屋体育大学で過ごさせていただき、学問や競技力はもちろんのこと、人間力も育てていただきました。大学として鹿屋の地の素晴らしさ、魅力を発信していきたいように頑張ります」と就任の挨拶がありました（4面に関連記事）。

選手 杉野正堯

パリ五輪体操金・杉野正堯

広報アンバサダー第1号に就任

鹿屋体育大学

最近、食が細くなってきたにもかかわらず、お腹の脂肪がつまみやすくなった。肩の痛みで息子のとのキャッチボールすらままならない。特にこれといった原因が思い当たらないだけに、これらの変化が老化的兆候である可能性を考えざるを得ない。今年で40代半ばにさしかかるが、これほど早く「老化」を実感する日が来るとは想像もしていなかった。『広辞苑』によれば、老化は「年をとるにつれて生理機能がよくなること」や「時間の経過とともに変化し、特有の性質を失うこと」とされる。老化は生物に共通する普遍的な生命現象であり、現時点では、老化の進行を完全に防ぐ方法はまだ見つかっていない。結局は、生涯を通じて老化と仲良く付き合い、いくしかならない。近年、老化は年齢を重ねるごとに徐々に進行するだけでなく、ある特定の年代で急激に進行することがわかってきた。そのタイミングが44歳および60歳前後であるという。この時期にはアルコール、脂質、糖などの代謝に関与する体内物質やそれらの機能が大きく変化し、疾患リスクも増大する。まさに注意が必要な年代である。そんな「急激な老化」の真っ只中、週末はジョギングを続けている。走る距離も時間も少しずつ伸びており、きつと老化に抗う一助になっているに違いない。次に訪れる60歳の自分を思い浮かべ、老いとどう向き合い、どう折り合いをつけていくか、思索する日々が続く。（N・S）

最近、食が細くなってきたにもかかわらず、お腹の脂肪がつまみやすくなった。肩の痛みで息子のとのキャッチボールすらままならない。特にこれといった原因が思い当たらないだけに、これらの変化が老化的兆候である可能性を考えざるを得ない。今年で40代半ばにさしかかるが、これほど早く「老化」を実感する日が来るとは想像もしていなかった。『広辞苑』によれば、老化は「年をとるにつれて生理機能がよくなること」や「時間の経過とともに変化し、特有の性質を失うこと」とされる。老化は生物に共通する普遍的な生命現象であり、現時点では、老化の進行を完全に防ぐ方法はまだ見つかっていない。結局は、生涯を通じて老化と仲良く付き合い、いくしかならない。近年、老化は年齢を重ねるごとに徐々に進行するだけでなく、ある特定の年代で急激に進行することがわかってきた。そのタイミングが44歳および60歳前後であるという。この時期にはアルコール、脂質、糖などの代謝に関与する体内物質やそれらの機能が大きく変化し、疾患リスクも増大する。まさに注意が必要な年代である。そんな「急激な老化」の真っ只中、週末はジョギングを続けている。走る距離も時間も少しずつ伸びており、きつと老化に抗う一助になっているに違いない。次に訪れる60歳の自分を思い浮かべ、老いとどう向き合い、どう折り合いをつけていくか、思索する日々が続く。（N・S）

スポーツを愛する人たちへ

（公財）ミズノスポーツ振興財団は「日本国のスポーツの振興に必要な事業を行い、さらなる国民の心身の健全な発達に資する」を目的とし、その活動は50年以上にわたります。具体的には、スポーツの普及振興やスポーツの国際交流の発展に対する助成、スポーツに関する科学的・学術的・医学的研究に対する助成、優秀なスポーツ指導者やスポーツライターを顕彰する事業などを行っており、その助成累計額は約86億円に及びます。

大学で学び研究したことを実践で生かし、選手たちを次々に世界の舞台でメダル獲得や入賞させている指導者がいる。2017年から日本代表コーチとしてパラリンピック知障の障がい部門で陸上競技中距離を指導している長崎県立虹の原特別支援学校(大村市)の松尾貴之教諭だ。

高校時代、将来は体育の教員になりたいと思っていた松尾さんが教育実習生としてやってきた鹿屋体育大学学生と出会い、大学の存在を知ることになった。当時は、その大学で学んだことが将来自分を世界の舞台に導くことになるとは思いもしなかった。

陸上競技の1500mを専門にしていた松尾さんは、九州インカレには出場できても、全国大会までは手が届かない選手だった。しかし、現在指導しているのは、まさに世界を舞台に闘っている二人だ。神戸2024

い部門1500mで3位、パリパラリンピックで6位に入った十川裕次選手とパリパラリンピック5位に入った赤井大樹選手だ。二人はそれぞれ奈良や大分に住んでいるため、土日に長崎から彼らの元に通う指導生活が続いている。

松尾さんが指導の基本としているのは、学生時代に学んだバイオメカニクス(身体力学)の分析手法だ。学生時代の指導教官だった松尾彰文助教授(肩書は当時)は日本陸上競技連盟のバイオメカニクス班のメンバーで、五輪や世界選手権にも帯同していた。その研究室で、アトランタ五輪のデータなど

も参考に、世界の一流選手と一般の学生とのスピード、ピッチやストライドの差などをデータ化し、何が違うのかを比較研究してきた。特に卒業後に、バイオメカニクス学会で足が接地している時と離れている時の時間の比率に関する論文を発表したことは、現

在も、選手を指導する上でとても役立っているという。松尾さんが指導する前は、選手たちは最初から全力で飛ばしていく戦法だった。しかし、今は違う。スピード曲線を作って、あなたの強みはここで、弱みはここですと説明することで、トレーニングプランやレースプランを選手が自ら立てられるように仕向けている。自分が大学で学んだ知識をそのまま並べても、数字の羅列になってしまい、知的に障がいのある選手には理解が進まない。そこでグラフや視覚的にわかりやすい資料を作りながら、知的障がい者の教育に効果的であるという手法をミックスして説明していく。これ

によって、有名選手と一緒だと興奮して集中できなかったり、反対に自分だけだと思ってしまうこともあった。松尾さんの指導者としての存在意義は大きい。

800mや1500mの中距離は有酸素運動と無酸素運動の中間にあり、両方の練習をしなくてはならないきつい種目だが、欧米では陸上競技の花と言われているほど人気がある。選手を引き連れて初めて遠征した国際大会では、松尾さん自身が1500mの人気と応援に度肝を抜かれたそう。もちろん選手たちも日本とは全く違う状況に戸惑いながら、心ここにあらずといった状態だった。指導者の立場としては、こうした中でも冷静に自分のレースができるように選手を促す必要がある。

知的障がい者はIQが70未満と言われている。通常の選手だと、試合時のウォーミングアップ場や着替え室、招集場などがわからない場合に人に聞くという行為ができるが、そうはいかないのが彼らだ。会場に到着してから、一つひとつ丁寧に説明して理解させていく必要がある。松尾さんによれば、

「障がいを持った人がスポーツをすることで人生をより豊かにすることができれば、松尾さんにとってこれほどうれしいことはない。」

スポーツ文化ジャーナリスト(宮崎県)の松尾さんが指導の下、『武道をカタルガ!』で2024年語のスポーツ養成プロジェクト』で半年間に渡り学んできた受講生が、講義や取材、情報収集で得た学びの集大成を披露する場として、本学剣道部女子の試合中継を行いました。会場には県内外から241人が来場しました。『カタルガ!』には鹿児島弁で語りましょう!の意味も込められています。今回の受講生は本学の森園俊太郎さん(武道課程4年、剣道部)、長良高等学校・岐阜に、鹿屋市民からの一般参加で中山平八郎さん(48歳)と鎌田孝さん

スポーツライアンス室員として第1回目のカタルガから担当してきた棟田雅也講師は「剣道部の顧問の阪茂樹教授から、剣道の魅力を広く市民に伝えて盛り上げるために鹿屋市で開催される剣道大会でカタルガに取組んでもらえないかと声を掛けをいただき実現しました。今回は会場の希望者にワイヤレス受信機を貸し出し、その場で実況・解説を聞きながら試合を観てもらいました。回を重ねるごとにブラッシュアップされていくことを実感しています」と振り返りました。講師として毎回指導を

している松尾さんは「武道は解説も難しいので、カタルガ史上一番難しい挑戦だったと思います。剣道をわかりやすく伝えるために、受講生がいつもより長い時間をかけて基礎から勉強した半年間でした。学生の入学までの経歴や、剣士としての目標、大学剣道の面白さや魅力を伝えられたら、という気持ちで臨みました」と話しました。

実況・解説を終えて森園さんは「剣道大会に出場した選手一人ひとりや剣道の魅力について楽しく語り、伝えることができたことは、剣道部の一員としても学生生活最後のとてもいい思い出になりました。中山さんは「取材で得た知識を試合に重ね合わせることで、選手がどのように頑張ってきたかが改めて分かり、剣道を魅力的に伝え、語ることができました」と、鎌田さんは「実況では練習の成果を発揮できたと思います。剣道について語るのは初めてでしたが、市民の方々に少しでも興味を持っていただけたのではないかなと思います」とコメントしました。

大会の結果は女子が2連覇、男子が5年ぶりの優勝で、念願のアベック優勝を果たすことができました。閉会式後にセレモニーが行われ、松尾さんから3人へ修了証書が手渡されました。



卒業生
インタビュー
Interview

**長崎県立虹の原特別支援学校教諭
陸上競技知的障がい者日本代表コーチ**

**11期生
松尾 貴之 さん**

【Profile】
まつお・たかゆき。1975(昭和50)年8月30日、長崎県生まれ。長崎県立佐世保北高等学校出身。1994年4月、鹿屋体育大学へ入学。1998年3月卒業。現在長崎県立虹の原特別支援学校(大村市)教員。2017年から陸上競技知的障がい者日本代表コーチとなる。パリパラリンピック陸上コーチも務めた。

有名選手と一緒に興奮して集中できなかったり、反対に自分だけだと思ってしまうこともあった。松尾さんの指導者としての存在意義は大きい。

800mや1500mの中距離は有酸素運動と無酸素運動の中間にあり、両方の練習をしなくてはならないきつい種目だが、欧米では陸上競技の花と言われているほど人気がある。選手を引き連れて初めて遠征した国際大会では、松尾さん自身が1500mの人気と応援に度肝を抜かれたそう。もちろん選手たちも日本とは全く違う状況に戸惑いながら、心ここにあらずといった状態だった。指導者の立場としては、こうした中でも冷静に自分のレースができるように選手を促す必要がある。

知的障がい者はIQが70未満と言われている。通常の選手だと、試合時のウォーミングアップ場や着替え室、招集場などがわからない場合に人に聞くという行為ができるが、そうはいかないのが彼らだ。会場に到着してから、一つひとつ丁寧に説明して理解させていく必要がある。松尾さんによれば、

「障がいを持った人がスポーツをすることで人生をより豊かにすることができれば、松尾さんにとってこれほどうれしいことはない。」

スポーツ文化ジャーナリスト(宮崎県)の松尾さんが指導の下、『武道をカタルガ!』で2024年語のスポーツ養成プロジェクト』で半年間に渡り学んできた受講生が、講義や取材、情報収集で得た学びの集大成を披露する場として、本学剣道部女子の試合中継を行いました。会場には県内外から241人が来場しました。『カタルガ!』には鹿児島弁で語りましょう!の意味も込めめられています。今回の受講生は本学の森園俊太郎さん(武道課程4年、剣道部)、長良高等学校・岐阜に、鹿屋市民からの一般参加で中山平八郎さん(48歳)と鎌田孝さん

スポーツライアンス室員として第1回目のカタルガから担当してきた棟田雅也講師は「剣道部の顧問の阪茂樹教授から、剣道の魅力を広く市民に伝えて盛り上げるために鹿屋市で開催される剣道大会でカタルガに取組んでもらえないかと声を掛けをいただき実現しました。今回は会場の希望者にワイヤレス受信機を貸し出し、その場で実況・解説を聞きながら試合を観てもらいました。回を重ねるごとにブラッシュアップされていくことを実感しています」と振り返りました。講師として毎回指導を

している松尾さんは「武道は解説も難しいので、カタルガ史上一番難しい挑戦だったと思います。剣道をわかりやすく伝えるために、受講生がいつもより長い時間をかけて基礎から勉強した半年間でした。学生の入学までの経歴や、剣士としての目標、大学剣道の面白さや魅力を伝えられたら、という気持ちで臨みました」と話しました。

実況・解説を終えて森園さんは「剣道大会に出場した選手一人ひとりや剣道の魅力について楽しく語り、伝えることができたことは、剣道部の一員としても学生生活最後のとてもいい思い出になりました。中山さんは「取材で得た知識を試合に重ね合わせることで、選手がどのように頑張ってきたかが改めて分かり、剣道を魅力的に伝え、語ることができました」と、鎌田さんは「実況では練習の成果を発揮できたと思います。剣道について語るのは初めてでしたが、市民の方々に少しでも興味を持っていただけたのではないかなと思います」とコメントしました。

大会の結果は女子が2連覇、男子が5年ぶりの優勝で、念願のアベック優勝を果たすことができました。閉会式後にセレモニーが行われ、松尾さんから3人へ修了証書が手渡されました。

左から、森園さん、松木さん、鎌田さん、中山さん

「武道をカタルガ!2024」中継を実施

第74回九州地区大学体育大会剣道大会

まっすぐに。正直に。

大波酒造株式会社

〒893-0016
鹿児島県鹿屋市白崎町21番1号
電話(0994)44-2190 FAX(0994)40-0950

〇飲酒は20歳になってから。
〇飲酒は楽しく、適量を。
〇妊娠中、授乳期の飲酒はお控え下さい。
〇飲酒運転は法律で禁止されています。

Kubota 農業機械
株式会社
ミズホ商会

http://www.mizuho.kubota.ne.jp

〒893-0009
鹿児島県鹿屋市大手町12番1号
TEL (0994) 43-4178
FAX (0994) 44-9371

【営業所】
鹿屋・高山・志布志・岩川・
牧之原・野方・垂水・大根占

**汲取の御注文
浄化槽の管理**

N

水質安全に
全力投球

鹿屋市許
株式会社 西日本浄化サービス
代表取締役 田中ふみ子
鹿屋市王子町4531-2
TEL (0994) 43-3425

あなたの町に、レモンガス

株式会社**レモンガス**がこしま
鹿屋支店

鹿屋市大浦町11423番地1
0994-42-2181



教員表彰式を実施

特別優秀授業賞 3名
ゴールドコーチ表彰 4名
ブロンズコーチ表彰 7名

令和6年度教員表彰式を、昨年10月31日に実施しました。この表彰は鹿屋体育大学教員表彰規則に基づき、本学の授業において特に優れた教育能力を発揮した教員と本学学生の競技力向上に貢献した教員を対象に、毎年行われています。

今年度は前年度の授業振り返りアンケートを参考に総合的に判断して贈られる特別優秀授業賞に、国重徹教授、袴椅子准教授、成田健造講師の3名、前年度の競技成績を基にアジア選手権大会等において3人以上の成績を挙げた学生を輩出したこと等により贈られるゴールドコーチ表彰に萬久博敏教授、塩川勝行講師、山下龍一郎講師、中谷太希講師の4名、全日本選手権大会等において3人以上の成績を挙げた学生を輩出したこと等により贈られるブロンズコーチ表彰に瓜田吉久教授、前阪茂樹教授、竹中健太郎教授、下川美佳准教授、小森大輔准教授、山口大貴講師、村川大輔講師の7名が選出されました。

表彰式では金久博昭学長から一人ひとりに表彰状が渡され、来年度も表彰されるように引き続き励んでほしいと激励の挨拶がありました。



写真前列左から、萬久准教授、前阪教授、瓜田教授、金久学長、国重教授、竹中教授、袴准教授、2列目左から村川講師、山口講師、山下講師、小森准教授、塩川講師、成田講師、中谷講師、(下川准教授欠席)

令和6年度永年勤続表彰式を、12月6日に開催しました。この表彰は、勤労感謝の日の11月23日の時点で官公庁等で20年以上勤務し、このうち本学の職員として10年以上職務に精励した方が対象となります。今回受賞したのはスポーツ・武道実践科学系の中村夏実教授、牛込哲平係長、海洋スポーツセンター・坂口陽平専門職員の3名です。

表彰式では金久博昭学長より受賞者へ表彰状が授与され、長年に渡る功績への感謝の意と、引き続き熱意を持って大学に貢献してほしい旨の言葉がありました。

3名を代表し、中村教授から「この表彰は身に余るものでございますが、20年間の振り返り、新しい機会になりました。新たに起こる出会いや出来事に期待しつつ、今後もさまざまな取り組みに邁進してまいります」とお礼の言葉がありました。

令和6年度永年勤続者表彰式を開催しました

「いきないうちから表彰式を、12月6日に開催しました。この表彰は、勤労感謝の日の11月23日の時点で官公庁等で20年以上勤務し、このうち本学の職員として10年以上職務に精励した方が対象となります。今回受賞したのはスポーツ・武道実践科学系の中村夏実教授、牛込哲平係長、海洋スポーツセンター・坂口陽平専門職員の3名です。」



山田理恵 教授
(在籍年数27年)

3月で定年退職される先生

奈良女子大学文学部卒業。同大学大学院修士課程文学研究科修了。筑波大学大学院博士課程体育科学専攻単位取得満期退学。文学修士。体育学博士。1998年12月、本学助教として着任。2005年4月より教授。2016年8月、2024年3月、附属図書館長兼務。2017年4月より大学院体育学研究科スポーツ国際開発学共同専攻修士課程専攻長。専門分野は体育・スポーツ史・スポーツ文化・人類学・身体運動文化論。

安田修 教授
(在籍年数9年)

1982年3月、東京大学薬学部薬学科卒業。1991年3月、大阪大学医学部医学科卒業。同大学医学部大学院内科系博士課程修了。医学博士。2005年10月、第4回Asian-Pacific Society of Hypertension 最優秀発表賞、2006年6月第21回国際高血圧学会Prize受賞。2016年4月、本学に教授として着任。2017年4月より2024年3月、保健管理センター所長。専門分野は血管生理学、基礎生理学。日本医師会認定健康スポーツ医、日本スポーツ協会公認スポーツドクター。老年科専門医・指導医、高血圧専門医・指導医、内科学会認定内科医。

ウインドサーフィン部

課外活動 団体紹介

鹿屋体育大学ウインドサーフィン部です。私たちは、4年生2名、2年生2名、1年生1名の計5名で、海洋スポーツセンターを拠点に活動しています。学生主体の活動を行っており、大会の目標設定や練習内容についても部員間で意見を出し合いながら決めています。

来年度の目標は、部員全員で全日本学生ボードセーリング選手権に出場し、入賞を果たすことです。日々の練習では、技術向上を目指すとともに大会を意識し、課題を克服する中で確かな成長を実感しています。一方で、私たちは他大学と比較して部員数や大会参加数が少ないという現状があり、これが目標達成の大きな壁となっています。

しかし、この状況を打破するために、部員全員が一丸となり切磋琢磨して練習に励むことで、「日本ウインドサーフィンが大好きで、楽しんでいる集団」と胸を張って言えるチームを目指します。

部員が5人と少人数ではありますが、部員同士の仲が良く、反省点や改善点を活発に意見交換できる環境があります。この少人数ならではの強みを生かし、少数精鋭のチームとして目標達成に向けて頑張ります！

何か物足りない、何か決め手に欠く、そんな“あと一歩”をお手伝いします。

ヒューマン印刷に変わる

株式会社 新生社印刷

〒893-0013 鹿児島県鹿屋市礼元1-22-34
TEL 0994-43-2238/FAX 0994-43-7541
URL <http://www.shinsei-p.co.jp>
E-mail kan@shinsei-p.co.jp

心にしみる... 鹿児島焼酎 小鹿

小鹿酒造株式会社

鹿児島県鹿屋市吾平町上名7312 TEL0994-58-7171
お酒は20歳を過ぎてから。
飲み過ぎに注意しましょう。妊娠中・授乳期の飲酒はお控えください。

自宅・アルバイト先 ← DIRECT! → 自動車学校 ← DIRECT! → 学校・寮

★その日のスケジュールに合わせて1時間おきにダイレクト送迎 忙しい学校生活の強い味方です!!

★提携会社による分割払いも月々5000円からご利用になれます

心豊かな車社会を願う

寿自動車学校

運転免許のことなら

ご予約・お問い合わせ **TEL 0994-43-2627** E-mail: info@kotobuki-ds.jp

〒893-0013 鹿児島県鹿屋市礼元1-13-30 県公安委員会指定教習所[技能試験免除]
ホームページURL <http://kotobuki-ds.jp>

すべての消費者のために!!

MOVE
It's your future
寿スポーツ

鹿児島市新川町603-2
TEL 0994-44-2123

闘いの記録

(令和6年12月
～令和7年1月)

【ウインドサーフィン部】

■2024年度九州学生ボードセーリング選手権大会
(12/7～8 鹿児島/鹿屋市高須海水浴場とその沖合)
マテクノ293ビギナーレディースクラス
1位 梁川佳代子



会場に向けて話をする杉野選手

「懐かしい。やっぱり居心地がいいですね」。昨年12月13日、パリ五輪体操男子団体金メダリストの杉野正堯選手（徳洲会体操クラブ、令和3年学部卒、6年修士修了）が久しぶりに母校を訪ねて最初に向かったのは、在学中だれよりも練習を重ねた体育館の体操練習室でした。駆けつけた報道陣の前で得意な鉄棒やあん馬などダイナミックな演技を披露し、合間には後輩たちと気さくに談笑する姿も見られました。

公益財団法人スポーツ安全協会のスポーツ活動等普及助成事業の支援を受けて「鹿屋体育大学学生のためのトップアスリート人材育成支援事業」の一環として開催した、競技力向上セミナーの講師としての来学。杉野選手は講演前に、共にオリンピックを目指した元本学教員で日本体操協会男子強化本部長の村田憲亮氏とともに学長室を訪れ、金久博昭学長にパトリ五輪での金メダル獲得を報告しました。その後、金久学長から杉野選手へ「広報アンバサダー第一号」の委嘱状が贈られました。

杉野選手は「夢への挑戦」とともに頑張る君たちへ」という山に自分を感じると信じていた。難しい山にはそんな簡単に登れないし、登頂ルートに正解はない。登頂失敗は振り出しに戻るのではなく、レベルアップしながら進んでいくことが正解への近道だと思ってオリンピックという山に登りつづけた」と話しました。最後に「がむしゃらに頑張ることはダサくない。僕も血のじむような努力でもう一回ロサンゼルスで金メダルを取りに行くので、みなさんもがむ

われていた翌日最後の鉄棒で難しい技に挑み、120%の力を出し切ったにもかかわらず夢が叶わず泣いた2度目の補欠や、世界選手権日本代表の3度目の補欠で競技の引退を考えたことについて触れながら話しました。それでもあきらめなかったのは「夢の実現は山登りと同じ。金メダルという山に自分を感じると信じていた。難しい山にはそんな簡単に登れないし、登頂ルートに正解はない。登頂失敗は振り出しに戻るのではなく、レベルアップしながら進んでいくことが正解への近道だと思ってオリンピックという山に登りつづけた」と話しました。最後に「がむしゃらに頑張ることはダサくない。僕も血のじむような努力でもう一回ロサンゼルスで金メダルを取りに行くので、みなさんもがむ

「夢への挑戦」 ——ともに頑張る君たちへ——



宣言書を読み上げる金久学長と中西市長



会場と霧島ヶ丘公園を中継で結び「パリ2024オリンピック記念モニュメント除幕式」も同時開催された。バックのスクリーンに映っているのは、田邊さんと芝原さん

鹿屋市と鹿屋体育大学が「目指せ！鹿屋スポーツ実施率日本一共同宣言イベント」を1月13日に開催し、会場となった本学水野講堂に鹿屋市民約160名が集いました。スポーツ実施率とは週1回以上運動・スポーツをしている成人の割合のことです。現在の鹿屋市の53・9%（令和6年度調査）をまずは70%にすることを目標に掲げています。中西茂樹市長と金久博昭学長が署名した宣言書の一部を読み上げて披露しました。

宣言式終了後にはパリ五輪体操男子団体金メダリストで本学卒業・修了生の杉野正堯選手も参加しての「パリオリンピック記念モニュメント除幕式」が行われました。このモニュメントは2004年のアテネオリンピック競技場8000m自由形で本学在学中に金メダルを獲得した柴田亜衣さんの功績を称えて設置された以降、鹿屋市に縁のある選手がオリンピックに出場するたびに設置されており、杉野選手のほか同じくパリオリンピックに出場した岡澤セオン選手、橋本英也選手の写真、手形、サインも一緒に紹介されています。

この日は鹿屋市の霧島ヶ丘公園にいる除幕者の田邊友唯さん（スポーツ総合課程4年、体操競技部主将、全日本学生選手権大会男子個人総合優勝、芝原叶妃さん（鹿屋中央高校2年、SUP2年連続世界選手権入賞）を中継で結び、ファンファーレとともに除幕を行いました。その後、杉野選手へ中西市長から賞賛金、公益財団法人鹿屋体育大学体育・スポーツ振興教育財団の風呂井敬理事長から奨励金が交付されました。

中西市長は「スポーツを通して鹿屋市が健康で、すこやかな街になり、鹿屋市民全員が1週間に1回は意識的に身体を動かす、そういった街になるよう最終的に100%を目指します」、金久学長は「30～50代の働き盛りの忙しい世代の実施率を高め、鹿屋市と同輪で1+1が3にも4にもなるように体育大がある街として日本一を実現すべく、鹿屋市と一心同体となつて100%を目標に取り組んでいきたい」と話しました。杉野選手は「ロサンゼルスでは個人でも金メダルを取って、再び鹿屋市にモニュメントをつくっていただけるように頑張ります」と抱負を述べました。

「スポーツ実施率日本一」を共同宣言



左から金久学長、風呂井理事長、杉野選手、中西市長

鹿屋体育大学ではこの「蒼天」や公式ウェブサイト、その他SNS等を通して広く皆様へ本学の活動情報をお知らせしております。ご覧になってのご意見、その他鹿屋体育大学の教育研究活動等へのご意見がございましたら、今後の運営・活動の参考にさせていただきますのでぜひお寄せください。

ご意見・アンケートは
右記二次元コードから
web入力できます。



鹿屋体育大学へのご意見をお寄せください。



情報発信中！



公式 HP



X (旧Twitter)



Facebook